

三重県産養殖魚の産地間競争力強化技術開発－Ⅵ

養殖魚のハダムシ対策・マハタに対する安全な駆虫方法の検討

小林智彦・宮崎優太

目的

マハタ養殖においてハダムシを駆除するため薬浴や低塩分処理等を行う際に発生する浮上死対策として昨年度は水温と水圧の影響があるか現場での急浮上試験及び水温の急激な変化を与える陸上試験を実施したが、へい死は再現できなかった。本年度は現場での急浮上試験を再度実施するとともに別の試験魚として導入したマハタで浮上死した個体のへい死状況の確認等を行った。

方法

1 急浮上試験

昨年同様、水圧変化の影響を確認する為、尾鷲湾の試験生簀のある筏にマハタ一年魚を10尾籠に入れ、底層付近の水深約10mに垂下、1週間馴致させた後、籠につないだ係留ロープを手繰り寄せることにより船上に人力で急浮上させた。

2 浮上死とみられるマハタ種苗の症状確認

別事業で試験筏に導入したマハタにおいて5月から7月にかけて浮上死した個体が得られたため、マハタ養殖マニュアルに基づき脳の出血等を確認した。

結果

1 急浮上試験

急浮上させたマハタにへい死は見られなかった。この時の現場水温は水深10mで26.7℃、表層では26.3℃で昨年の急浮上試験時より5℃高かったが上下でほぼ水温差は無い状態であった。



図1. 試験に使用したカゴと供試魚

2 浮上死とみられるマハタ種苗の症状確認

へい死魚にマニュアルにあるような顕著な出血はみられなかった。他の所見としてはわずかに鰓に褪色が見られた程度で病変等は確認できなかった。

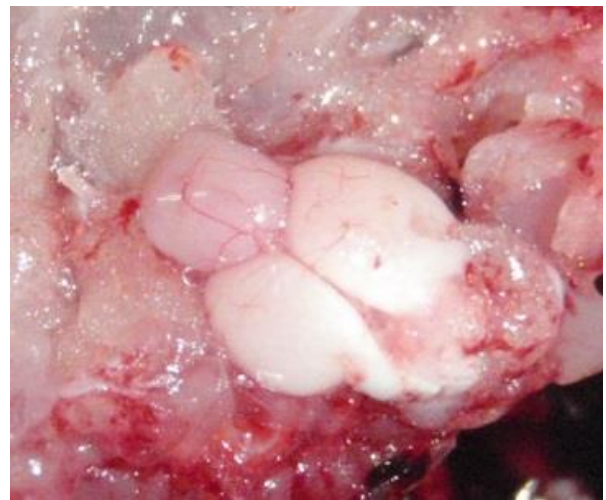


図2. 浮上死したマハタの脳

考察

昨年に続き、浮上死の原因究明に向けて急浮上試験を行ったが浮上死を確認できなかった。

令和2年度にマハタ養殖業者に対して行ったハダムシに関するアンケート調査において浮上死対策についての質問を行った。この質問への回答数は少ないが、高水温時には薬浴等の処置はしないとの回答もある一方、中には時間をかけて生簀を上げると回答した漁業者もいた。時間のかけ方は「薬浴の数日前」、「2,3日前」、前日等様々であった。

養殖業者の中では高水温時は養殖魚を触らない事が基本であるものの、ハダムシの発生で処置をせざるを得ない場合、時間をかけて生簀を上げるという取扱いが定着しているものと思われる。今後、養殖業者から事例を集めるとより良いやり方が見いだされるかもしれない。